

生育は平年並

早生の穂肥は遅れずに!

気温高めの予報
出穂が早まる可能性大

令和3年6月21日
長岡農業普及指導センター
稲作情報 No. 4

電話 0258-38-2554
E-mail ngt111440@pref.niigata.lg.jp

1 中干し後の水管理

- (1) 中干しは田面に小ヒビが入る程度で終了しましょう。
穂肥を適期に施用できるように、出穂期1か月前までに中干しを終了しましょう。
- (2) 中干し後は浅水の間断かん水を行い、徐々に飽水管理に移行しましょう。
飽水管理は、発根を促進し、根を健全に保ちます。
中干し後にたん水を続けると根腐れや下葉の枯れ上りを招きます。

2 出穂期予想と穂肥時期のめやす

- (1) 本年のコシヒカリの出穂期は、平年並で前年より1日早い予想です。
季節予報によると6月19日からの向こう1か月の気温が高い確率が40%と予想されており、出穂期が予想より早まる可能性があるため、穂肥施用が遅れないように注意しましょう。
- (2) 幼穂形成期や出穂期はほ場間で差があり、今後の天候によっても前後します。
各ほ場で幼穂確認を行って出穂期を予想し、穂肥の適期を判断しましょう。

表1 幼穂形成期及び出穂期の予想と穂肥時期のめやす (長岡・平場地域)

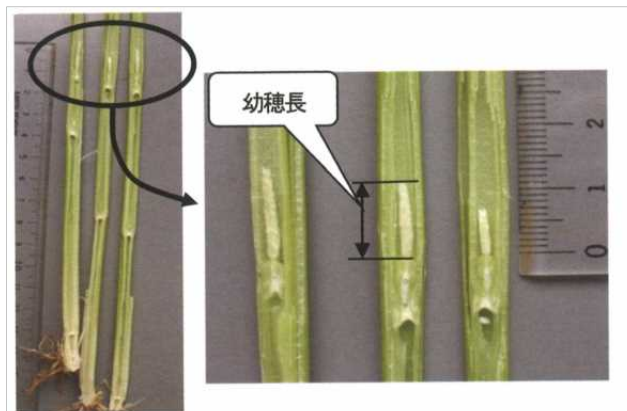
品種名	幼穂形成期	出穂期	穂肥時期のめやす (月/日) ()内は出穂前日数		
			1回目	2回目	
新潟次郎	6月25日	7月17日	6/22 ~ 6/24 (25 ~ 23)	7/ 3	(14)
ゆきん子舞	7月 3日	7月25日	6/30 ~ 7/ 2 (25 ~ 23)	7/11	(14)
つきあかり	7月 3日	7月25日	6/30 ~ 7/ 2 (25 ~ 23)	7/11	(14)
こしいぶき	7月 3日	7月25日	7/ 2 (23)	7/11	(14)
ゆきの精	7月 4日	7月26日	7/ 1 ~ 7/ 6 (25 ~ 20)	7/12 ~ 7/16	(14 ~ 10)
コシヒカリ	7月12日	8月 4日	7/17 ~ 7/20 (18 ~ 15)	7/25	(10)
新之助	7月18日	8月10日	7/20 ~ 7/23 (21 ~ 18)	7/29 ~ 7/31	(12 ~ 10)
あきだわら	7月21日	8月13日	7/19 ~ 7/21 (25 ~ 23)	7/30	(14)
ゆきみらい	6月27日	7月19日	6/26 (23)	7/ 6	(13)
わたぼうし	6月30日	7月22日	6/30 ~ 7/ 2 (22 ~ 20)	7/10 ~ 7/12	(12 ~ 10)
こがねもち	7月 7日	7月30日	7/12 ~ 7/15 (18 ~ 15)	7/20	(10)
五百万石	6月28日	7月20日	6/30 (20)	7/ 8	(12)
たかね錦	7月 3日	7月25日	7/ 5 ~ 7/ 7 (20 ~ 18)	7/11 ~ 7/15	(14 ~ 10)
越淡麗	7月16日	8月 8日	7/21 (18)	7/29	(10)

(注) コシヒカリの出穂期予想(6月14日現在: 作物研究センター)を基にした予想値である。
早生品種は5月1~5日稚苗移植を、中晩生品種は5月10~15日稚苗移植を想定して予想した。

3 出穂前日数を予測する

(1) 幼穂の長さの測り方

- ① 平均的な生育の稲を3株程度選ぶ。
- ② 1株の中で長い方から2～3本の茎を選び、株元から茎を引き抜き、図のように幼穂長を確認する。



カッターなどで切って、幼穂の長さを測る。

(2) 幼穂長から出穂前日数を予測する

出穂前日数	幼穂長 (cm)
23日	0.1
20日	0.2
18日	0.5～1.0
12日	4.0～6.0

4 早生品種の穂肥のポイント

(1) 分施（基肥＋穂肥）の場合

幼穂形成期（幼穂長 0.1 cm の時期）を確認し、各品種の適期に施用する。

特に、つきあかり、ゆきん子舞では、1回目の穂肥を幼穂形成期に、遅れることなく施用することが多収のポイントです。

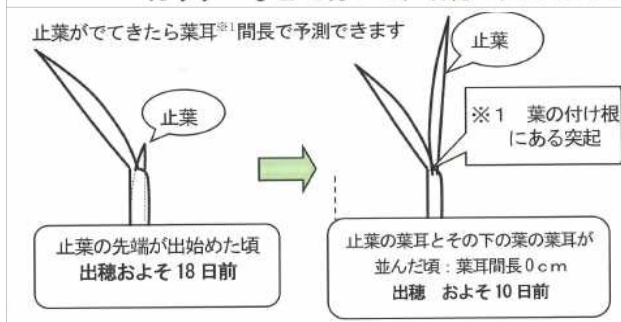


表2 穂肥施用量のめやす（合計施用量を2回に分けて施用する）

品種名	合計施用量 (N kg/10a)	留意点
つきあかり ゆきん子舞	6	1回目3～4kg/10a、2回目2～3kg/10a がめやす。
ゆきの精	2～3	—
こしいぶき	2	砂壤土など地力の低いほ場では、1kg/10a程度多めに施用する。
五百万石	1～2	1回目に重点を置く。
わたぼうし	2～3	—
こがねもち	1～3	生育過剰の場合は遅めの1回施用とし、1～1.5kg/10a以内にとどめる。

(注) 必ず、たん水してから施用する。大豆あと等では生育に応じて減肥する。

(2) 基肥一発 の場合

出穂期の葉色の低下が予想される場合は、追加で穂肥を施用する。

5 病害虫対策

(1) 斑点米カメムシ類

農道・畦畔の雑草は、種子がつかない間隔で草刈りをしましょう。

必要に応じて後期除草剤を使用し、水田内の除草も徹底しましょう。

(水田内の雑草もカメムシの発生源になるため、斑点米の原因となります。)

(2) いもち病

いもち病の感染好適条件が観測されています。

常発地やいもち病に弱い品種、多肥栽培のほ場では、特に早期発見に努め、病斑を見つけ次第防除しましょう。

暑い時期になります。農作業中の熱中症に注意しましょう。農作業事故に注意しましょう。